

1969年度の外部調査

1969年度歴史研究室・平城宮跡発掘調査部の調査 5

津島遺跡(岡山市津島) 岡山県教育委員会が実施した武道館建設予定地の弥生式遺跡の調査。1969年2・3月。田中(琢)・佐原・工楽・西谷・佐藤・阿部・佃ほかが参加。前年の調査成果を再確認し、さらに、弥生式時代前期の住居跡・建物跡、中期前半の水田跡、条里の坪境とみられる畦畔などを検出した。岡山県教育委員会『岡山県津島遺跡調査概報』(1970.4)参照。

喜光寺(奈良市菅原町) 阪奈バイパス菅原インターチェンジ建設にともなう、奈良県教育委員会が実施した緊急調査。1969年3月。浅野清氏が調査主任となり、宮沢・安達が担当。『喜光寺旧境内緊急発掘調査報告書』(『奈良県文化財調査報告書』第12集, 1969.6)参照。

池上・四ツ池遺跡(大阪府和泉市池上町, 堺市船尾町) 第2阪和国道の建設にともない、第2阪和国道内遺跡調査会が実施している調査。1969年4月以降、坪井・佐原が調査委員として参加。同調査会『池上・四ツ池』(1970.3)参照。

唐招提寺講堂(奈良市五条町) 奈良県教育委員会が実施中の解体修理にともなう地下調査。1969年5～12月、石井担当。講堂の礎石基礎と基壇周囲とを発掘し、つぎのことを明らかにした。1. 基壇の西南隅で天平当初の地覆石、東南部で鎌倉時代の地覆石の存在を確認した。2. 講堂の南の地表上にある4個の礎石は、講堂にともなわず、江戸時代以降にすえたものと判明した。3. 土廂の柱すえつけ痕跡を、上記の礎石の下で検出し、土廂が鎌倉時代から江戸時代まで存在したことを確認した。4. 講堂の基壇の下層から、東西棟の掘立柱建物(25m×3m以上, 5間×2間以上)と、素掘り溝3条・玉置敷溝1条・瓦埴敷溝2条、木樋暗渠2条、東西柵列2条を検出した。これらはおおむね8世紀前半にぞくするものであって、溝などからその時期の土器・軒丸瓦・軒平瓦を多数検出した。奈良県文化財保存事務所「唐招提寺講堂地下調査概要」(月刊文化財 第79号, 1970.4)参照。

薬師寺(奈良市六条東町) 近畿大学・薬師寺が主体、杉山信三氏が主任となり1968年から3ヵ年計画で実施中の調査。1960年7・8月。阿部、および八賀・宮沢・猪熊・村上・佃が参加。金堂基壇の東半(第1図)とその外側・西塔西部・東面回廊・回廊西南隅・講堂東北隅を発掘。瓦と乾漆仏像片・塑壁・金銅製垂木先飾金具が出土。杉山・松下・阿部『薬師寺の最近の発掘調査』(佛教芸術 第74号, 1970.2)参照。

羅城門(奈良市西九条町・郡山市野垣内町) 奈良市が1969年7・8月榎本杜人氏を、郡山市教育委員会が1970年3月浅野清氏を主任として実施し、それぞれ松下(正)・高島が主として参加。浅野清「羅城門の発掘」, 中村春

第1図 薬師寺金堂南面基壇

寿・松下(正)・高島「羅城門跡の調査について」(奈良県観光 第162号, 1970.5)参照。

久米廃寺(岡山県久米郡久米町) 山陽縦貫道建設にともなって岡山県教育委員会が実施した調査。1969年8月。沢村が参加。地上に露出している塔心礎の西側に小規模な堂跡をみだし、また東面の垣跡を検出した。

隠岐国分尼寺(島根県隠岐郡西郷町) 保存のための範囲確認調査。1969年8・9月。西郷町が実施し、沢村・町田・宮沢が参加。掘立柱建物数棟の存在を確認した。範囲については、次年度の調査にのこした。

法隆寺若草伽藍跡(奈良県生駒郡斑鳩町) 文化庁が実施した国営調査。前年に続く第2次調査。1969年10月。榎本杜人氏が調査主任となり、文化庁関係の技官と、奈良県教育委員会の技師とが調査員として参加。4.6aを発掘。当研究所からは、主として、松下(正)・森・が担当。文化庁文化財保護部記念物課『法隆寺若草伽藍跡昭和44年度発掘調査概報』(1970.3)参照。

美濃国分寺(岐阜県大垣市青野町) 寺域史跡指定にともない、大垣市が実施した調査。1969年10～12月。八賀・伊東が参加。金堂・僧房それぞれの一部を発掘し、講堂の規模をあきらかにし、また、寺の四至を確認した。大垣市教育委員会『史跡美濃国分寺発掘調査報告』Ⅱ(1970.3)参照。

安芸国分寺(広島県賀茂郡西條町) 広島県教育委員会が、範囲確認のために実施した調査。1969年11月。松下(正)が参加した。現在の南門の基壇下に、門の痕跡を、現本堂の前面に建物痕跡をみだした。広島県教育委員会『安芸国分寺跡 第1次調査報告』(1970.3)参照。

不退寺(奈良市法蓮町) 宅地造成にともない、調査部が実施した調査。1969年12月。平塚2号墳の濠の一部を検出し、その規模を確認できた。

伯耆国分寺(鳥取県倉吉市国府) 県道つけかえ工事にともない、鳥取県教育委員会が実施した調査。1970年1～3月。沢村・宮沢・工楽が参加。塔跡を発見し(第2図)、その規模を確認し、多数の瓦と風簷を発見した。

沖縄勝連城(中頭郡勝連村) 沖縄援助の一環として、文化庁の1969年度事業として実施した発掘調査。1970年1～3月。横山・沢村が参加し指導を担当した。勝連城は沖縄本島太平洋岸にある。15世紀初めに滅びたが『おもろ』にも歌われた名城だった。戦前・戦後に城壁を破壊されたが、地形がよく残り、1965年から3回、琉球文化財保護委員会は、本丸・二の丸の一部を調査した。今回の日本政府援助による本調査では、城の全域を確認し、二の丸殿舎を全面発掘した。また各城門跡を発掘するなど、所期の成果をあげた。

第2図 伯耆国分寺塔跡